

道より北也、大柿道より南川尻道より南、ろく川有舟渡り、此川くいせ川と云、本名はくせい川也、此河の下をさわたりと云、

めいぢよりがうどへ一里六町三十九文、がうどよりかなふへ二里、此間にぎふへ行道左に有、五十五文、川有舟わたし也、ながら川の下也、がうどの下をす、のまたの渡と云、ぎふノ古城有、かなふよりうぬまへ四里、百卅五文、信長公取立の古城也、山をいなば山といふ、古今にもいなば山とよめるが此山也、町端にながら川有、瑞龍寺なはて、各務野と云有、右の方に尾州小牧山みゆるは、是よりうぬまへ二リ、人家なし、

うぬまより太田へ二里、七十五文、世俗にうるまといふ、あやまり也、鵜沼也、犬山の城有、うぬま川のむかい也、半道程有、水野より鵜沼へ四ツあり、かち山是より蜂屋へ一ツ半也、通道にさるばみとて太田川の岸かけのうへにくはんをん立給ふ、

太田より伏見へ二里、七十五文、大河有、舟わたし太田のわたりと云、信州木曾川の末なり、水出ればながれはやく、なみたかく、むつかしきわたしなり、此末をうぬま、かさ松、萩原等の渡と云、とた太田のわたりの向也、是より太田の渡せず、に大柿へ廻り、舟にて本道へ出る道あり、

伏見よりみたけへ一里、三十三文、是よりかち田といふ所へ三リ、爰に古城有、齋藤山城、守濃州の守護たりし時、息男新五、此城に居ル也、よなだへ一リ、日比は肥田玄番居城也、又金山へ半里信長公の御時、森三左衛門同むさしの守居城也、右皆加茂郡の内也、

みたけよりほそくへ三里、百廿二文、此所かんの大寺共いふ寺有、又入口左の山に九影寺とて、濟下の寺あり、ぐりと云所此近邊也、元和の比、千村市右衛門是に住す、惠奈郡うどつばし、平岩、

ほそくでよりおほくでへ二里、五十七文、